地下鉄「専用席」に効果

札幌市 協力継続訴え

高齢者ら利用9割超

札幌市営地下鉄の高齢者や障害者向け「専用席」を巡り、5月、同僚が座っているのを注意されたことに腹を立てた自衛官が高校生を暴行したとされる事件が起きた。関東などの鉄道の多くが「優先席」とする中、同市営地下鉄では半世紀近くにわたって専用席として定着。市交通局は「専用席はいつでも対象者が座れるよう引き続き空けておくよう協力をお願いしたい」と呼びかけている。（野田快）

優先対象者以外は空席でも利用しないケースが目立つ（札幌市営地下鉄南北線で）

■空席は5割

専用席の効果を研究している北星学園大の鈴木克典教授らの調査によると、市営地下鉄の専用席利用者における対象者の割合は93・4％。一方、関東の地下鉄の優先席では19・9％にとどまった。

専用席・優先席の空席割合は市営地下鉄が55・4％に上った一方、関東は22・1％。市営地下鉄では対象者以外は座らないとのマナーが浸透し、混雑時でも空席になっていることが多い。対象者が立っていた割合は、市営地下鉄が13・2％、関東が46・6％だった。

調査は2016～17年、市営地下鉄3路線と関東主要地下鉄3路線で目視で実施。専用席の対象者は高齢者や障害者、乳幼児連れや妊婦など他の鉄道の優先席の対象と同じで、いずれのデータからも市営地下鉄では専用席が空席の場合が多く、対象者が座りやすい状況がうかがえる。

■札幌市電は「優先席」

市営地下鉄は開業3年後の1974年に優先席を試行的に導入したが、高齢者らから「対象者なのにあまり座れない」といった声が上がり、75年に「専用席」に改めた経緯がある。

鈴木教授は、開業からまもない時期にルール化したことで長く浸透する結果になったとみている。数年前に病気を患ってから専用席をよく利用するという江別市の[redacted]さん([redacted])は「いつも専用席が空いており、電車に乗ってすぐに座れるのでありがたい」と話す。

一方、札幌市電では「優先席」を運用。同市交通事業振興公社の担当者は「車内の限られたスペースを有効活用するために、健常者を含めてできる限り多くの方に座っていただくため」としている。同じく優先席を導入しているJR北海道バスも空席時には優先席の利用を推奨しており、「車内事故防止の観点もある」と狙いを話す。

■とがめられるケースも

鉄道各社は高齢者らが座りやすいよう試行錯誤するが、浸透しなかったケースもある。横浜市営地下鉄や阪急電鉄（大阪市）では全席を優先席の扱いとし、譲り合いを促す取り組みを行ったが、「席を譲ってもらえない」などの声が寄せられ、いずれも10年ほどで終了。その後、特定の「優先座席」「ゆずりあいシート」を設置したという。

札幌市営地下鉄では、妊娠初期の妊婦など援助が必要でも外見では判別しにくい人がつける「ヘルプマーク」への理解不足から、マークをつけて専用席に座っても、とがめられるケースがあるという。